

10. 食虫性鳥類の誘致増殖

1 試験担当者

保護部鳥獣科長：池田真次郎

〃 鳥獣第二研究室：松山資郎，由井正敏，高野 肇

2 試験目的

森林有害虫獣の生物的防除の一環として食虫性鳥類の誘致増殖をはかるため，造林地における育林施業と調和した環境造成の試験研究を行なうことを目的としている。

3 昭和43年度の経過とえられた結果

3カ年間に繁殖季を中心に延べ145日の調査を重ね，390回のセンサスによって棲息鳥相を詳細に把握し，又延66日間の標識試験によって1,513羽を追跡調査し，その他巣箱調査，水場調査等によって鳥類の行動を林相調査による林分構造と関連させて把握した。

更に営巣調査によって巣箱以外の自然巣328個を発見し，うち139巣について営巣経過を調査し，繁殖生態を総合的に把握するとともに営巣環境，棲息環境について詳細に解析したが，3カ年間に試験区内で93種の鳥類を記録し，うち25種以上の繁殖を確認し，棲息数の変動を育林施業による環境変化と関連させてつかむことができた。棲息番数はいくつかの誘致施設の効果も表われて3カ年に130十，150，164番と増加した。上記の諸調査により，造林諸作業による影響に対する鳥の適応能力の巾の広さを見たが，しかし繁殖最中の作業は物理的，心理的に繁殖行動の妨げになることもあった。又鳥の行動能力，繁殖諸生態からみて，林分構成は複雑である方が，鳥が棲息し易い事を見た。以上の事から造林諸作業上の若干の考慮によって，ある程度鳥類を誘致し得る見通しを持った。

センサス方法の究明は390回のセンサス資料を基に解析を行ない，近く報告する予定である。（これはIBP-PT-Sと共同研究している）。

4 昭和44年度の試験計画

1. 繁殖諸行動域の平面的，垂直的なより詳細な把握
2. とくに採餌活動の行動範囲，対象食物としての昆虫類の量的調査
3. 誘致施業の実施手順の究明
4. センサス法について，東北滝沢試験地との連けいにより，より詳細な究明。なお，このセンサス試験についてはIBP-PT-Sと共同研究となっている。